



make you smile with みらいIT



株式会社ミライト・ホールディングス

CSR 推進室

〒135-8111
 東京都江東区豊洲 5-6-36
 TEL : 03-6807-3120
 FAX : 03-5546-2962

<http://www.mirait.co.jp/>

ミライトグループ
 CSR報告書2013



印刷用紙は、適切に管理された森林で生産されたことを示す FSC® 森林認証紙を使用しています。

印刷インキは、植物油インキを使用しています。

この報告書は、みんなの文字®を使用しています。みんなの文字は、一般社団法人 UCDA が「読みやすさ」を認証した書体です。



CONTENTS

- 1 目次・編集方針・グループ概要
- 3 トップメッセージ
- 5 特集 ミライトグループの事業と社会的責任
- 8 これからの社会インフラをつくる
- 9 業務や社会生活を円滑にする仕組みをつくる
- 10暮らしを便利に、豊かにする仕組みをつくる
- 12 情報通信などさまざまな社会インフラをまもる
- 13 コミュニティやビジネスをまもる
- 14 「いざという時」から毎日の暮らしをまもる
- 15 お客さまサービスの向上
- 17 元気な職場づくり
- 19 環境への取り組み
- 21 社会とのコミュニケーション
- 23 グループマネジメント
- 25 ミライトグループのCSR

グループ会社一覧(2013年8月末現在)

株式会社ミライト・ホールディングス

株式会社ミライト	株式会社IPテクノサービス	株式会社ミライト・テクノロジーズ	片倉建設株式会社
大明ネクスト株式会社	東電通テクノス株式会社	株式会社レナット関西	ケイ・ソフト株式会社
大明テクノ株式会社	東電通アクセス株式会社	株式会社コムリード	住電通信エンジニアリング株式会社
國興システムズ株式会社	東電通ネットワーク株式会社	株式会社レナット東京	奈良建設株式会社
東邦建株式会社	株式会社東電通エンジニアリング西日本	株式会社フューコム	近畿電機株式会社
明成通信株式会社	株式会社日設	株式会社コトネットエンジニアリング	株式会社アクティス
株式会社日進通工	株式会社沖創工	株式会社リガール	株式会社アクロネット
大明エンジニアリング株式会社	株式会社リブネット	株式会社ランドクリエイト	近畿通信産業株式会社
大明ネットワーク株式会社	日本産業株式会社	株式会社エアライズ	MIRAIT PHILIPPINES INC.
大明通産株式会社	株式会社ホープネット	株式会社ラビスネット	Relative MIRAIT Services Pty Ltd
新光電機株式会社	DAIMEI SLK(PRIVATE)LIMITED.	株式会社ミライト情報システム	MIRAIT Information Systems Myanmar Co., Ltd.
大明ビジネスメイト株式会社			

グローバル拠点



主な拠点



編集方針

本報告書では、ミライトグループの、持続可能な社会の実現に向けた方針・活動をご報告しています。株式会社ミライトと株式会社ミライト・テクノロジーズを中心に、事業活動を通して持続可能な社会の実現に貢献していること、事業活動以外の分野でもステークホルダーの皆さまとともにさまざまな活動を行っていることを、事業と社会の関わりを「つくる・まもる」をテーマにまとめた特集記事と、活動カテゴリー別に方針や具体的な活動内容や数値データを掲載した報告パートでお伝えします。

対象期間

2012年4月1日～2013年3月31日
(報告の一部に、2013年4月以降の活動と取り組み内容も含まれます)

発行日

2013年9月

グループ概要

● 設立

2010年10月1日

● 資本金

70億円

● 社長 (CEO)

鈴木 正俊

● 株式

【発行済株式数】 85,381,866株
【単元株式数】 100株

● 上場証券取引所

東京証券取引所第1部 (コード番号:1417)

● 格付

格付投資情報センター (R&I) A-
日本格付研究所 (JCR) A-

● 所在地

東京都江東区豊洲5丁目6番36号

● 主な拠点

【国内】 32拠点
※ミライト、ミライト・テクノロジーズの合計
【海外】 5拠点
(フィリピン、オーストラリア、スリランカ、ミャンマー、タイ)

● 従業員数 (2013年3月末現在)

【連結】 7,454名
(ミライト・ホールディングス 116名)
(ミライト 連結4,343名 単体2,650名)
(ミライト・テクノロジーズ 連結2,995名 単体964名)

● 決算期

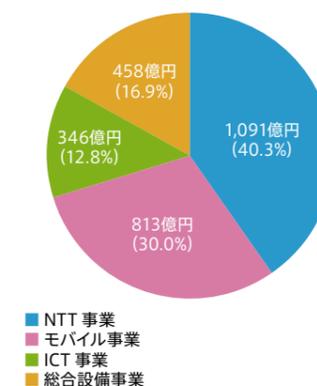
3月31日

ミライトグループ事業構成

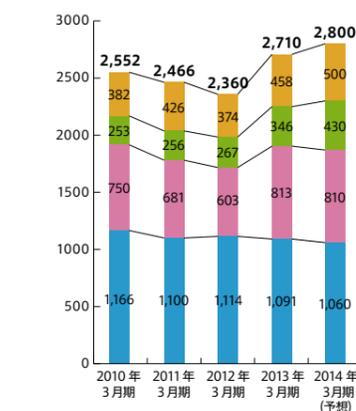
● 事業内容

- ① NTT 事業
固定系通信設備の設計・構築・運用・保守
- ② モバイル事業
モバイルキャリアの無線基地局および基幹網の設計・構築・運用・保守
- ③ ICT 事業
情報通信設備の設計・構築・運用・保守やシステム構築、ソフトウェア開発
- ④ 総合設備事業
電気・空調設備、環境・新エネルギー、一般土木等、総合的な社会基盤の設計・構築・運用・保守

連結売上構成比率 (2013年3月期)



事業別売上高の推移 (単位:億円)



トップメッセージ

事業だけでなく 社員個人の活動を含めた すべてをCSRと捉える

株式会社ミライト・ホールディングス
代表取締役社長

鈴木 正俊



グループの再編成で新しいステージへ

ミライトグループは、2012年10月に事業の再編成を行いました。大明(株)と(株)東電通が合併して(株)ミライトが誕生し、(株)コミュニチュアは(株)ミライト・テクノロジーに商号変更しました。これにより、事業を推進するための新しい体制が整ったという意味で、2012年度はグループ全体にとってエポックメイキングな年だったといえます。また、グループ再編成をしながらも増収増益で年度を終えることができ、新体制移行と事業活動の両方を順調に行うことができた年でもありました。

今後は、固定通信に関しては非常に成熟化し、これまでのような取り組みでは伸びしろが限られています。一方モバイルは、携帯電話を一人一台持つのは既に当たり前で数量的には頭打ちですが、さまざまな情報コンテンツやサービスと連携することで機能が拡張しています。それに伴いミライトグループにもビジネスチャンスが広がっていると考えられます。また、ICTや総合設備に関しては、今後拡大したい事業分野として捉え積極的に取り組んでいるところですが、さらなる拡大に向けて手応えをつかんでいます。

2013年度は、現在進めている中期事業計画の最終年度にあたります。売上高2,800億円、営業利益120億円というのは、計画立案時には高い目標として設定したのですが、最近の事業拡大などによりはるかに非達成したいと思っています。それと同時に、2014年度以降の新しい中期計画について、将来の成長の芽を育みながら準備をしていく時期でもあります。事業再編成に伴う事業所の統廃合や人的な体制づくりも、実行は2013年度からが本番になりますから、大切な一年として、着実に取り組んでいきたいと考えています。

10年先の社会を見据えて 資源配分や人材育成を行う

私たちの手がける情報通信などの社会インフラの事業はもともと、戦後の荒廃から端を発しています。時代とともに整備が進み、さまざまな社会インフラが安定・成熟してきましたが、現在、そうした社会インフラの老朽化が既に始まっています。また、これからは年齢・人口構成がアンバランスになることが予見されていますが、その変化をさまざまな技術や知識を活用して乗り越えていくことも求められています。このような社会的な需要に対して、いかに実現・貢献できるのか。そこに、ミライトグループの事業の大きなテーマがあるように思います。

これからは、全国で発生する工事の需要をカバーできる体制づくりや、資金的な体力が今まで以上に必要です。また、通信だけでなく電気や土木などの設備関係についても幅広く業容を拡大していくためには、専門性を持った人材や

技術を集約しなければなりません。昨年実施したグループ再編成は、経営リソースの最適な再配置を行うなど、「総合エンジニアリング&サービス会社」を目指すミライトグループをさらに前進させるために行いました。

社会インフラに関連する事業を手がける企業は、短期の事業だけに目を向けていることは許されません。現在の事業とその周辺領域で3年先の成長を目指し、事業領域の拡大によって5年先の成長基盤をつくる。そして10年先を見越して、資源配分や人材育成を行う必要があると考えています。

一人ひとりの意識で 「いい仕事をする会社」にする

ミライトグループの手がける仕事は、パターン化したものが少ないという特徴があります。個々のビルや街のかたちに応じて仕事の仕方が変わるためです。また、通信や電気などの技術を扱うため、ちょっとしたミスなどが全国的な通信遮断やコンピュータのダウンなどを招きかねません。社員一人ひとりが、さまざまな状況を把握したうえで、高い品質を維持し、安全に実行することで、ミライトグループは「いい仕事をする会社」と評価されるようになります。

いい仕事を続けていくための最大の鍵は、人材です。設計段階では、さまざまな機能やサービスを組み合わせるよりよいものにしていく能力が問われます。また施工の現場では、さまざまな職能を持つ協力会社の方々とも協力して実行しなければなりません。さらに技術は進化し続けていますから、お客さまに対して「今の技術でどこまでできるか」といった提案ができる専門性も必要とされます。確かなコーディネート能力と技術を基盤に、お客さまから信頼を得られる仕事ができるよう、社員一人ひとりが成長していく必要があるのです。

このようなミライトグループの価値観を社員が共有し、新しい企業文化を心をもとにしてつくっていくために、2012年10月に「ミライトWAY」をまとめました。全社員の意識と行動のよりどころとなるよう「経営の基本理念」「行動指針」「企業倫理憲章」を体系的に整理しています。平易な言葉でまとめられていますが、すべてを実践していくのは難しいものです。一人ひとりがプロとして自覚を持ち、日々意識的に行動することで着実に積み重ねていってほしいと思います。

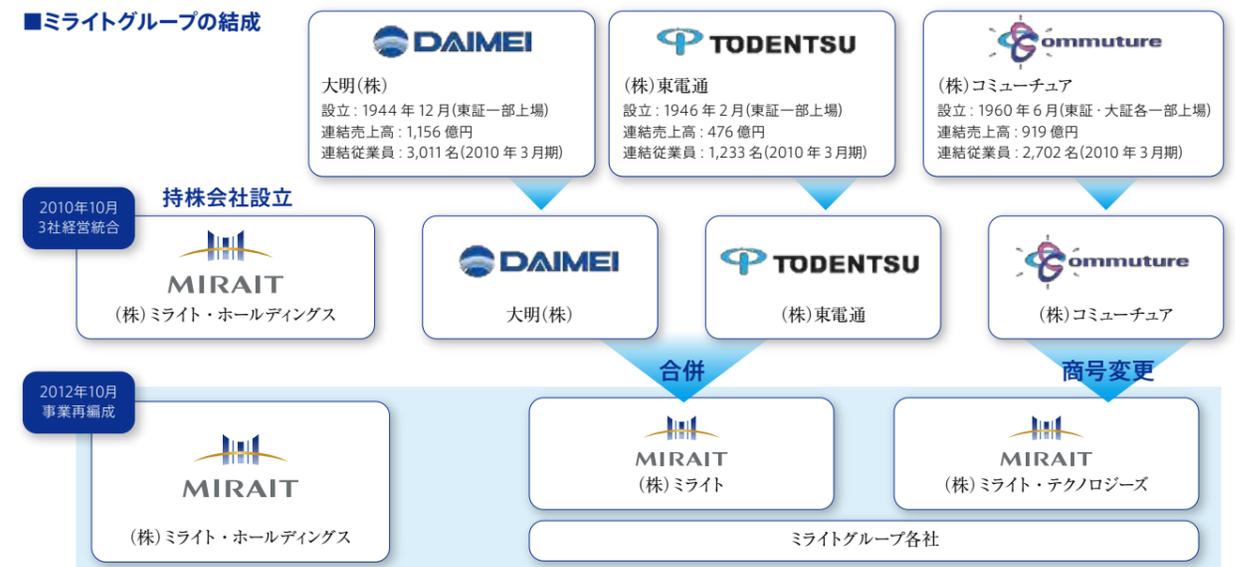
事業そのものをCSRと捉え、 バランス感覚を磨く

社会の基盤となるインフラをつくるミライトグループにとって、企業活動そのものがCSRであると私は考えています。社会に関連するインフラは一社でつくれるものではなく、行政や企業間のチーム連携プレーでつくり上げるものです。日々の小さな仕事が積み重ねられ、社会の一端を担う大きなシステムになるため、一つひとつを疎かにせず取り組まねばなりませんし、事業上のコミュニケーションも重要となります。チームワークを築いていい仕事をするため、ミライトグループを風通しのよい組織にしていきたいと思っています。

一方、社員が一人ひとりの個人として、コミュニティの活動などに参加し、自分にできることをやるというのも大切です。直接的には会社の利益に影響を与えるものではありませんが、社員個人の活動も含めて企業の行っていることすべてがCSRにつながると考えています。

時代の波が大きく動いている今、足元の事業と将来、企業活動とその周辺の活動がバランスをとりながら進んでいくことは、ミライトグループにとって大きな挑戦となります。グループとして新しい歴史を歩み始めた私たちの、これからの活動にご期待いただければと思います。

■ミライトグループの結成



つくる

ミライトグループの

特集

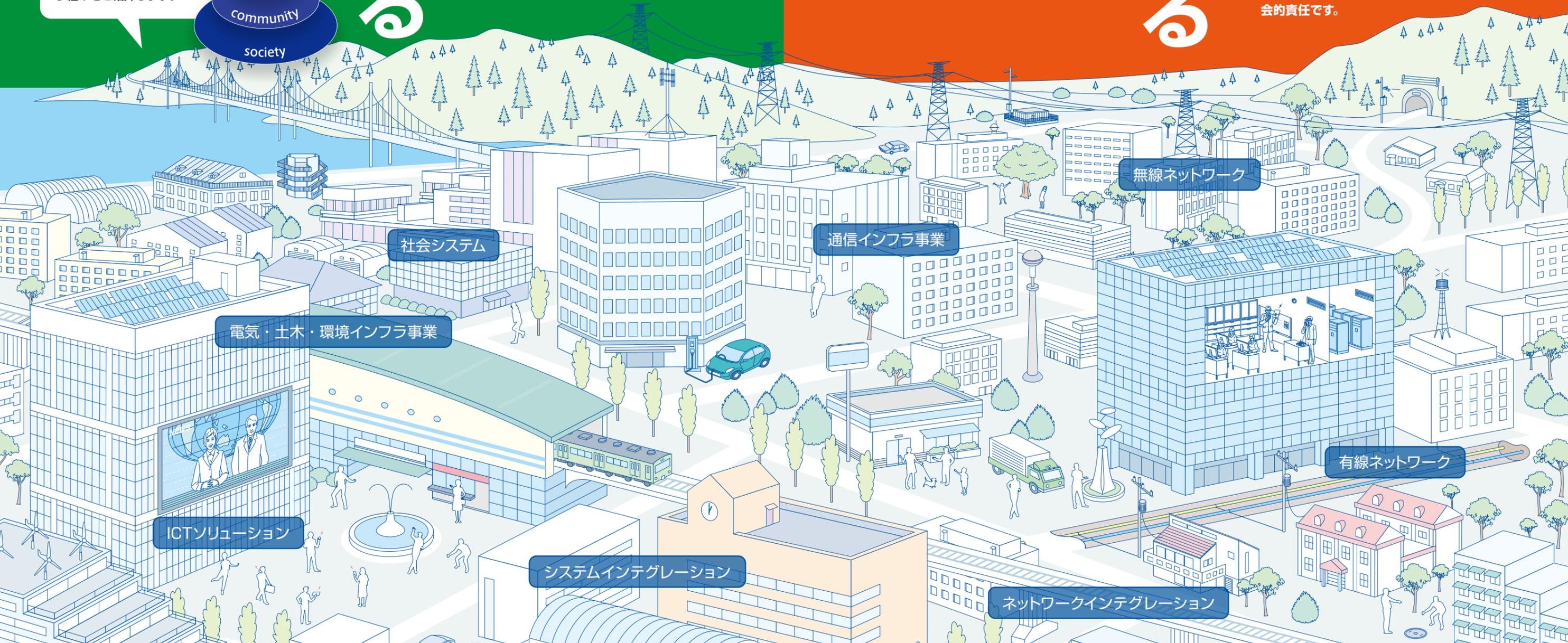


事業と社会的責任

まもる

これまで通信インフラを広く社会に広げてきた中で、培った経験と技術力。それを活かして、より便利で社会のニーズに応えられるものをつくること、そして、重要なインフラをいつでも安定して使えるようにすることや、社会や皆さまの暮らしをもまもれるシステムをつくること。それが、「総合エンジニアリング&サービス会社」であるミライトグループの社会的責任です。

ミライトグループの事業は、広く社会に影響するものから、個人の暮らしに直接関わるものまで幅広く展開しています。Society、Community、Individualの3つの面で、それぞれに行っている社会のニーズに応える取り組みをご紹介します。



Society

- LAN・WAN・無線LAN構築
- 携帯電話基地局工事
- 道路・鉄道・通信電気設備
- 照明設備、空調衛生設備・受変電設備工事
- 電柱の地中化設備コンサル、構築
- 交通システム
- 太陽光発電システム
- LED照明販売、取り付け

Community

- Wi-Fiスポット
- 燃料電池、EV充電システム
- サーバ構築
- ビジュアルコミュニケーションシステム
- Web会議システム、ビデオ会議システム
- コンタクトセンター構築
- ワークフォースマネジメント
- データセンタの構築
- オンデマンド構築
- 電力監視システム
- ビルエネルギーマネジメントシステム
- 小型風力発電

Individual

- 図書館システム
- 校務支援システム、講義出欠管理システム
- 地図情報システム
- 遠隔コンシェルジュサービス、遠隔教育システム(サイバーキャンパスシステム)
- 放送・サイネージシステム構築
- RFサイネージ、エリア放送

Society

- 災害復旧
- ITモニター
- 回線取り次ぎ、工事調整(通信ネットワーク保守)
- 上下水道工事
- セキュリティシステム構築
- DoS攻撃対策ソリューション
- 監視・保守オンサイトサービス

Community

- 町内会監視カメラシステム
- 不正侵入監視サービス
- 不正侵入防御システム
- 発着信履歴管理システム
- 通話録音システム
- 認証システム構築
- ビルエネルギーマネジメントシステム
- カスタマー・システム・サポート・センター

Individual

- 耐震・免震設備構築
- 落石監視センサーシステム
- ビル被災度診断システム
- 緊急地震速報システム
- 落雷抑制システム
- ネットワーク機器・サーバラック耐震免震設備工事
- 退避櫓の設置

つくる



これからの社会で「当たり前」になる インフラや技術を生み出し続ける

今でこそ当たり前のように日々活用しているインターネットや携帯電話も、誕生した当初はここまで普及するものと思われていませんでした。社会の動向が変われば、求められるインフラも変わり、それを支える技術や設備も変革が必要となります。これからの世の中でどのような技術が求められ、何がインフラとして必要になっていくのか。ミライトグループはそれを見極め、培った経験と技術力で、未来の社会に先んじて布石を打っています。



これからの社会インフラをつくる

今や情報インフラとなったネットワークは、これからの社会でますます重要度が高まると考えられます。同時に、社会全体で環境負荷を減らせるような仕組みに対するニーズも、急速に増えています。そのような動向に事業を通じて貢献していくのが、ミライトグループの使命です。

社会のニーズ

日本のすみずみまで安定した
高速のネットワークにしてほしい

ミライトグループができること

光ネットワークの構築

現代社会において、情報をリアルタイムで受信し活用できる環境は、個人の利便性はもちろん、経済・社会活動にも不可欠です。高速な情報通信インフラの普及で、人が移動することなくコミュニケーションできるようになると、環境負荷の削減にもつながります。ミライトグループは、光ファイバーの敷設などの通信インフラの構築に設計段階から関わり、構築、保守まで一貫した体制で行っています。



社会のニーズ

いつでもどこでも便利に使える
ネットワークがもっと普及してほしい

ミライトグループができること

モバイルネットワークの構築

スマートフォンやタブレットの普及に伴い、モバイル通信のインフラ整備が今まで以上に求められています。ミライトグループは日本全国で、モバイル通信のインフラに関するサービスをトータルに提供しています。日本国内のすべてのモバイル通信事業者の基地局設置に携わっており、場所選定から用地の折衝、構築、運用、保守まで、高い技術と品質で一貫して行っています。

山間部など電波状況の悪い地域では、今よりも快適に携帯電話が利用できるのを本当に待ち望んでいる方が多くいます。「この地域にはいつから電話が届くようになるの?」と声をかけられることもあり、私たちはこのような利用者皆さまの厚い期待に応えるため、この仕事に誇りを持ち頑張っています。

(株)ミライト トコモ事業本部
田中 亨



社会のニーズ

社会インフラは省エネルギーや
環境に配慮したものであってほしい

ミライトグループができること

地球環境にやさしい設備等の構築

地球温暖化やエネルギー資源問題などのグローバルな課題の解決には、社会全体で消費するエネルギーを削減したり、新エネルギーに移行させることが重要です。ミライトグループは、環境・省エネに関するさまざまなソリューションを提供することで課題解決に貢献しています。

太陽光発電システム

導入の提案から構築・保守までをトータルでサポートするとともに、補助金申請や電力会社との調整などで施主をサポート

燃料電池

スマートハウス、スマートビルのエネルギー源として注目の燃料電池の導入・設置・保守などをサポート

空調衛生設備

ビルなどの空調衛生設備をより効率的に稼働できるよう、高い技術と培ったノウハウを駆使して設備や制御システムを構築



LED 照明

従来の蛍光灯に比べ長寿命で、約 60%の節電効果がある LED 照明。電力制御システム等と組み合わせることで、電力消費量の調整が可能なことも利点です。ミライトグループは、首都高速道路中央環状品川線のトンネル、レインポーブリッジなどの LED 照明導入をサポートしています。



業務や社会生活を円滑にする仕組みをつくる

企業や学校、スタジアムなど、人が集まる場所に不可欠となったネットワークインフラ。そのネットワークの効率的な活用は、企業のサービス品質や業績に影響を及ぼすようになってきました。ミライトグループは技術力を基盤に、さまざまな情報通信システムの構築を行っています。

社会のニーズ

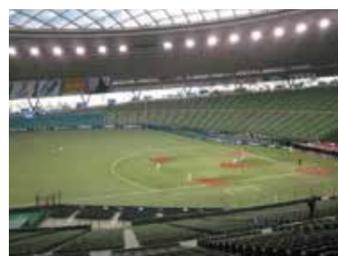
いつでもどこでもインターネットを快適に使いたい

ミライトグループができること

無線LANの構築

今や、ネットワークへの接続なしに仕事や生活をするのは考えにくくなりました。ミライトグループは国内外を問わず、ネットワークの規模や用途にあわせて、ネットワーク機器の選定・調達・設置・配線等のインフラ構築から運用・保守までトータルに提供しています。

大手コンビニエンスストアチェーンやスタジアムなど人が多く集まるさまざまな場所でインターネットを快適に使えるように、Wi-Fiを使った無線LANを構築しています。



スタジアム Wi-Fiソリューション
大勢の観客が集中するスタジアムでも安定してモバイルデータ通信ができるよう、無線LANアクセスポイントの設置密度を上げたWi-Fi環境を西武ドームに構築

社会のニーズ

ユーザーからのたくさんの声を反映させて事業に活かしたい

ミライトグループができること

コンタクトセンター構築

お客さまからの問い合わせに答えたり、サポートを行うコンタクトセンターは、消費者と企業をつなぐ大切な接点です。そこでのコミュニケーションがより円滑に効率よく進むよう、ミライトグループはコンサルティングからシステムインテグレーション、プラットフォーム構築、保守サービスまでをワンストップでサポートします。

コンタクトセンターにかかってくる呼量を高精度で予測し、適切な人員配置を行う「ワークフォース・マネジメント」などで、生産性向上にも寄与します。



社会のニーズ

最適なソフトウェアを使って、業務の効率を上げたい

ミライトグループができること

ソフトウェア開発

公共システム・企業基幹システムから、日々の業務管理、コンテンツ発信まで、業種・業態によって求められるシステムやソフトウェアはさまざまです。ミライトグループでは、今後の主流となるOSS（オープンソース・ソフトウェア）によるシステム開発やモバイル向けのアプリを開発・提供。導入先のさまざまな課題などを解決するシステムも数多く提供しています。

映像処理・分析・配信ソリューション

世界最速級の映像処理技術を用いた動画活用システム、中継器やPCを使わず計測ができる人流センサなど

介護福祉業務支援システム

訪問介護、通所系介護、入所系介護のいずれにも対応した介護事業者向けのオールインワンシステム

セキュリティ向上、コンプライアンス向上

ユーザ管理ソリューション、仮想デスクトップ/シンクライアントソリューション、クラウド対応ECMなど



暮らしを便利に、豊かにする仕組みをつくる

知識や情報を共有したり、円滑なコミュニケーションがとれると、暮らしはより豊かなものになります。情報通信システムは、人と人のつながりに新しい価値を生み出すことができます。その思いを実現するために、ミライトグループは挑戦を続けています。

社会のニーズ

地域住民にとって身近な情報を、さまざまなメディアで受信したい

ミライトグループができること

地域活性化モデル構築ソリューション

地方の過疎化や「シャッター商店街」などに対応するためのソリューションとして、ミライトグループでは「地域活性化モデル構築ソリューション」を提供しています。これは、行政・防災・防犯・商店などのさまざまな地域情報と連携し、地域住民にとって身近な情報を、テレビ・パソコン・モバイル機器などのメディアに発信しようというものです。



社会のニーズ

外国からの観光客をスムーズにご案内したい

ミライトグループができること

遠隔コンシェルジュシステムの構築

「観光立国」を掲げる日本には、数多くの外国人旅行者が訪れます。しかし、店舗や観光地のインフォメーションセンターのスタッフで多言語対応を行うのは難しいという現状があります。そこで、タブレット端末等を經由し、各言語に対応可能なコールセンターの通訳専門スタッフを呼び出してご案内できるシステムを提供しています。

通訳を介して、スタッフと旅行者の双方が満足いくコミュニケーションがとれ、正しい情報を伝えるとともに日本文化の理解にも貢献しています。



画面イメージ

社会のニーズ

図書館をIT化して魅力高め利用者の期待に応えたい

ミライトグループができること

図書館サービスの提供

電子書籍やデジタルコンテンツの普及、今後見込まれる学校のクラウドコンピューティング化などにより、図書館の運営・管理は大きな変革の時代を迎えています。多様で高度な知的情報サービス機能の提供といった図書館運営の進化が求められています。

ミライトグループの(株)リブネットでは、最新技術を活用した図書館情報システム「TOPNET」を提供するとともに、魅力的な図書館づくりのノウハウの提供とIT教育プログラムにより人材育成した専門スタッフの配置等で、顧客満足度の高い図書館のBPO（Business Process Outsourcing）を実現します。



2013年6月1日にオープンした香川県まんのう町の町立図書館

まもる



より安全・安心で効率的な 社会の仕組みを目指して、保守や管理を行う

情報通信インフラが「つながる」ことは、現代の事業活動や暮らしに不可欠になりました。

しかし、社会基盤を揺るがすような自然災害や事故は、いつ起きるかわかりません。

また、人の力だけで安全や効率性を維持するには限界があります。

ミライトグループは、テクノロジーを活用することで、災害の被害を未然に防いだり

人の仕事をサポートして安全や効率性を管理する仕組みを提供し、安心して暮らせる社会づくりに貢献します。



情報通信などさまざまな社会インフラをまもる

現代では、電話などの情報通信ネットワークは「つながるのが当たり前」と思われているものです。普段はもちろん、もし重大な事故や災害が起こっても、その「当たり前」を維持し続けること。それは決して派手さはありませんが、ミライトグループの果たす重要な責務だと考えています。

社会のニーズ

もしも災害でネットワークが寸断されたら、すぐに復旧してほしい

ミライトグループができること

通信ネットワークの災害復旧

万全の設計の下で構築した通信インフラも、洪水や竜巻、地震などの自然災害や、不慮の事故によって寸断されてしまうことがあります。災害時などは通信の需要が通常よりも増えることもあり、ネットワーク設備の被災にはグループが一丸となり復旧活動に取り組んでいます。



台風や地震など自然災害で通信ネットワークもたびたび被害を受けます。通信が途絶しないよう一刻も早く復旧工事ができる体制を整備しています。



2012年5月に発生した竜巻で被害を受けた、茨城県つくば市内の電柱26本や通信ケーブルなどの設備137カ所の復旧工事を行いました。



2012年12月に発生した中央自動車道笹子トンネル内の天井崩落事故に伴い、非常電話ケーブルの修復関連工事などを行いました。

社会のニーズ

既存の通信ネットワークをいつも安心して使えるようにしてほしい

ミライトグループができること

通信ネットワークの維持

通信ネットワークは施工すれば終わりというものではありません。毎日安心してご利用いただくために、定期的な保守を行っています。電柱や無線基地局などの高所から地下までさまざまな場所で作業を行うと同時に、故障などになると大規模な通信遮断につながる可能性もあるため、技術を磨き、安全・安心に最大限留意しています。

「ホッ」とする瞬間。それは皆さまから「当たり前」に電話やインターネットを使っているという話を聞いた時です。昨年、宮城県気仙沼市の仮設住宅へ光ケーブル新設工事に伺いました。その時のお客さまの笑顔は一生忘れません。そんなお客さまの「当たり前」の笑顔を守るために、私たちは日々この仕事に誇りを持って頑張っています。

(株)ミライト・テクノロジー NTT 事業本部
松下 昌平



社会のニーズ

普段意識していないインフラだからこそ、きちんと保守してほしい

ミライトグループができること

下水道の保守

生活の生命線である下水道管には老朽化による限界が迫っており、地震や安全対策の面からも計画的な維持管理が必要です。ミライトグループでは、道路を掘り起こすことなく通水しながら工事が可能な工法など、小口径から大口径までの更生工法をラインアップして下水道管老朽化の危機に対応しています。





コミュニティやビジネスをまもる

事業活動や地域コミュニティの安定的な運営は、誰もが望むニーズです。
しかし、安全をまもるために常に人の目でチェックし続けることが難しいのも事実です。
効率的で安全性の高い管理システムを提供して安全をまもるのも、ミライトグループの仕事です。

社会のニーズ

365日24時間、お問い合わせに対応できるようにしたい

ミライトグループができること

システムサポートセンター

ミライトグループで行っている CSSC (カスタマー・システム・サポート・センター) は、ネットワーク機器の故障などに関連するさまざまなテクニカルサポートを行っています。コンタクトセンターで24時間365日電話を受け付け、全国にある120拠点から2時間以内で駆けつけられる体制をとっています。



社会のニーズ

ビルや施設の環境負荷をトータルに管理したい

ミライトグループができること

ビルエネルギー・マネジメントシステムの提供

東日本大震災を契機に、エネルギー問題への関心が高まっており、経済産業省の政策のひとつとして、事業者がエネルギー管理支援サービスを契約する際に導入費用の一部補助を受けられる「エネルギー管理システム導入促進事業費補助金 (BEMS)」が公募されています。

ミライトグループは、(株)NTTデータカスタマーサービスが幹事を務めるコンソーシアムに参加。BEMS アグリゲータ*として登録を受け、お客さま担当窓口として主に販売、工事、ASP 提供、料金収納などを担当しています。

※ BEMS アグリゲータ

中小ビルなどに BEMS を導入するとともに、クラウド等によって自ら集中管理システムを設置し、中小ビルなどの省エネを管理・支援するために、あらかじめ、一般社団法人環境共創イニシアチブに登録された事業者のこと

ビルエネルギー・マネジメントシステムを導入するメリット

- 建物内の温度や CO₂ 濃度を計測し、空調の運転を自動で管理できる
- 室内温度を一定に保つよう、空調の設定温度を自動で調節できる
- 電力使用量を減らすことで、コスト削減・CO₂ 削減を両立できる

社会のニーズ

地域の安全を守るために活用できるツールがほしい

ミライトグループができること

ネットワークカメラ・ソリューション

ミライトグループでは、町内会の防犯を目的とした監視カメラシステムなど、IP 通信を利用したネットワークカメラを利用することで離れた場所から状況を把握できるネットワークカメラ・ソリューションを提供しています。チェーン店・無人倉庫・製造業など、監視目的以外にも複数拠点のマネージメントが必要なシーンやマーケティング調査のツールとしても利用されています。

東京都目黒区内の町内会から要請があり、東電柱、NTT 柱、公園内などに防犯カメラ 53 台を設置する工事を実施しました。これは、防犯カメラ内に画像データを蓄積するタイプですが、犯人を特定し逮捕することにつながり、警視庁から感謝状がありました。



目黒区内の監視カメラシステム



「いざという時」から毎日の暮らしをまもる

災害や事故は、いつ起きるかわからないため、日頃の備えが重要です。
ミライトグループは、情報通信インフラ事業で培った技術力を応用し、発展させて災害時の被害を未然に防ぐような設備やシステムの提案から施工、メンテナンスまで一貫して行っています。

災害用移動体衛星通信実験システム

大規模災害時、緊急連絡などで通信トラフィックが大量に発生するため、電話が繋がりにくい状況になります。災害用移動体衛星通信実験システムは、災害地の情報 (映像、データ等) 通信を確保し、また搭載した Wi-Fi を使用したモバイル基地局として通信を確保します。本システムは、独立行政法人情報通信研究機構 (NICT) が、産学官による共同開発を行っているもので、ミライトグループも車両搭載システム作成に参画しています。



災害用移動体衛星通信実験システム車両 © NICT

緊急地震速報システム



気象庁が配信する緊急地震速報を受信し、おおよその地震の到達時間や震度を、音声や専用表示器、サイネージや PC 画面等で案内します。画面上で日本地図を表示して、P 波・S 波の電波状況をリアルタイムで表示できます。また、既存の放送機器やエレベータ、自動ドア、工場ラインなどの制御機器を接続することも可能です。

耐震・免震設備構築

突然の地震でハードウェアが破損・故障し、そのダメージで情報システムの保存データが損失してしまった場合、生活やビジネスに与える影響は計り知れません。ロッカーなどの什器や OA 機器、ネットワーク機器、サーバラックなどが落下・転倒しないよう、設置状況にあわせた最適な耐震、免震対策を行っています。

ビル被災度診断システム

地震発生時、施設の防災管理者や対策本部、建物の居住者などは「建物に残るべきか、避難すべきか」の初動を迫られます。ビル被災度診断システムは、建物内に設置した加速度センサで揺れの情報を収集し、瞬時に診断・把握して定量的なデータで情報を提供することができ、BCM (事業継続マネジメント) やリスク管理に有効です。

落石監視センサーシステム

急傾斜地で落石が起きると、通信インフラや交通に多大な影響を及ぼします。そこで、傾斜地にワイヤーセンサーを設置し、崩落や落石が起きたらネットワーク経由で監視センターに警告を発信するシステムを提供しています。監視カメラの映像で目視確認したり、携帯電話でも警告の信号を受信でき、不慮の事故に備えることができます。

落雷抑制システム

従来の避雷針は、安全なところに雷を落とすという仕組みでした。しかし、雷を落とせない場所を、雷から保護しなければならない場合もあります。そこで「消イオン容量型避雷針」で雷を落とさせないシステムを提供しています。日本国内で鉄塔や電柱に採用されているほか、インドネシアの鉄塔でも活用されています。

退避櫓の設置

津波襲来時に緊急避難できる高い建造物があることで、多くの人命を救える可能性が生まれます。千葉県旭市に建設した退避櫓は、鉄骨造地上3階建て (避難フロア地上8.0m) で、最上階は約50m²の避難スペースを確保。約100名の収容が可能で、構造計算上は400名の荷重を見込んでいます。



高い技術力に基づく 確かな品質のサービスを提供する

安全と品質を大切にしながら、最高のサービスを提供することで、「総合エンジニアリング&サービス会社」としてお客さまから満足と信頼を得られるよう、心がけています。

品質マネジメントシステム

統合マネジメントシステムのひとつとして品質マネジメントシステム(ISO9001)を認証取得しています。「安心・安全・信頼の確保」を経営基盤と考え、「品質方針」を定めて高品質な工事やサービスの提供に努めています。

品質方針

標準化された生産・サービス活動を効率的に展開し、お客さまの期待・信頼に応える高品質な製品・サービスを提供する。

- 適用される法規制及び顧客要求事項に迅速に対応する。
- 「お客さま第一」の理念のもと、製品・サービスの質的向上並びに施工品質の向上を図ることにより顧客満足を向上させるとともに、効率的な生産・サービス活動を実現する。
- 品質リスクを低減し、QCDの維持・向上を実現する(QCDとは、Quality: 品質、Cost: コスト、Delivery: 納期)。

品質を支える技術力の向上

高度 IP 資格者の育成

ミライトグループでは、高度化する情報通信関連技術に対応するとともに、ICTソリューション関連の新規分野の事業拡大を図るため、高度な IP-NW 技術者およびサーバ技術者育成に力を注いでいます。

さらに、国内外から要望の高い「サーバ仮想化、NW 仮想化」にも、お応えするため、「NW とサーバ両方の技術」に長けた「マルチ IP 技術者」も中期計画に基づき育成をしています。

現在の主な資格取得者数は、CCIE: 44名、CCNP: 86名、CCNA: 207名、LPIC3: 28名、LPIC2: 63名、基本情報技術者: 293名、PMP: 24名となっています。

当グループの ICT 人材の特徴は、高度な各種資格を所有するだけでなく、そのスキルを通信事業者をはじめ企業におけるさまざまな ICT ビジネスの場で活用するなど、お客さまのニーズに応えてきたところにあり、蓄積された実践力やノウハウが、新たなお客さまからも高い評価をいただいています。

スキル確認統一試験

ミライトグループ各社の安全・品質レベルを統一し、相互に稼働応援ができる体制を整えるため、全作業員を対象にスキル確認統一試験を実施しています。この試験が、グループ共通のパスポートとなります。



技術研修センター

各事業分野で求められる資格者、有スキル人材を効果的に育成する拠点として、東日本エリアでは千葉県市川市、西日本エリアでは兵庫県神戸市に研修センターを設けています。お客さまへ「安心・安全・信頼」を提供できるよう技術

系専門研修、資格取得研修、安全研修、新入社員研修などを開催し現場力を高めています。



市川研修センター

業界全体の技術力向上に貢献する取り組み

展示会への参加

業界全体の技術力向上に貢献するため、各種展示会などに参加し研究開発の成果の発表や、新製品の紹介などを行っています。

「つくばフォーラム」(10月18日～19日)では、アクセスネットワークに関するサービスやシステムの総合シンポジウムとして「アクセスネットワークがつなぐ、明日という未来へ」というテーマに基づき、アクセスネットワーク建設工事の新たな可能性を切り開くため、安全性と作業効率を追求した技術開発成果を展示しました。

また、マイドームおおさか(大阪市)で開催された「西日本 ICT フォーラム」(9月12日～13日)



つくばフォーラム

においては、落雷抑制システム、施工マニュアルシステム、写真データの仕分け業務効率化、マルチ終端クランプ、分割式軽量 2m 柱上作業足場などを展示しました。

技能競技会への参加

他社の技術者とともに技術を磨くため、技能競技会に参加しています。

光通信工事技能競技会(7月25日)には、会員通信建設工事会社 19社から、各社の選抜競技会を勝ち抜いた代表者 67名が集まり、技術力を競いあいました。ミライトグループから 3種目 12名が選手として参加し、3名が入賞しました。

また、若手の技術者が競いあう第 50 回技能五輪全国大会(10月26日～29日)には、ミライトグループから 3名が参加しました。



光通信工事技能競技会

お客さま満足の向上を目指す取り組み

お客さま満足度調査

お客さまの声を積極的に業務の改善につなげるため、お客さま満足度調査を実施しています。

お客さまに提供した製品およびサービスが、顧客要求事項を満たしているか否かに関して、お客さまがどのように受け止めているかを把握するために、情報の入手方法のひとつとしてアンケート調査に取り組んでいます。

地紋印刷によるお客さま情報の保護

技術情報のリアルタイムな閲覧を可能にするため、技術情報閲覧システム(げんば InfoNet)を導入しています。

技術情報等の機密文書の情報漏えい管理として、閲覧文書に管理コードを入れることで個人の特定が可能となっています。さらに、コピーした際、文字や図形が浮かび上がり不正コピーを抑制する技術「地紋印刷」により、お客さま情報を保護しています。

KAIZEN 大会

サービスや生産の原点である現場を重視し強化するため、業務の改革や改善に関して現場から積極的に情報発信できるように改善提案活動や TQM 活動[※]を推進しています。

グループ各社で安全・品質向上、生産性向上、営業力強化などをテーマとする大会を開催していましたが、経営統合を機会に、東京会場と大阪会場をテレビ会議システムで結び、ミライトグループ「KAIZEN 大会」として合同で行うようになりました。

2012年9月20日に開催した大会では、18組の発表を行い、東京会場では 245名、大阪会場では 136名が出席しました。



※ Total Quality Management の略。総合的品質管理

多様な従業員がそれぞれの能力を活かして いきいきと働く

一人ひとりの個性を尊重し、安全で働きやすい環境整備を行うとともに、就業職場・職域の拡大に努めています。

労働安全衛生マネジメントシステム

労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)を認証取得しており、「安心、安全、信頼の確保」を経営基盤と位置づけています。「事故0(ゼロ)」を目指し、「労働安全衛生方針」を定め、安全で快適な職場環境の確保を図っています。

労働安全衛生方針

業務遂行にあたっては「安全」を最優先とし、ミライトグループで働く人々の安全と健康を確保し、快適な職場環境の形成を促進する。

- 適用される法規制及びその他の労働安全衛生要求事項を順守する。
- 適切なリスクアセスメント及び危険予知活動を通して、事業活動で発生する労働安全に関するリスクを迅速に低減・排除する。
- ミライトグループで働く全ての人は労働安全衛生の相互啓発を図り、安全・安心の定着活動を促進する。

安全大会

厚生労働省が中心となって毎年7月に実施される「全国安全衛生週間」にあわせて、ミライトグループ「安全大会」

を東京と大阪で開催しています。

社長のトップ方針説明、外部講師による安全講話、社員による安全施策の発表等を行い、情報共有による安全意識の醸成に努めています。

また、協力会社とのコミュニケーションを図ることを目的とした安全・品質連絡会も毎年開催しています。



現場主義の徹底

「安全総点検日」などを設定しグループ各社社長をはじめ幹部による現場パトロールや、作業者との直接対話などを行うことにより、安全に対する「現場主義」の徹底を図っています。

体感・体験研修は、安全の重要性を社員が体験によって再認識するために行っており、模擬体験を通して屋根上作業等の危険性と安全器具の必要性を社員自身の目で見て、体で感じてもらっています。

多様な人材の採用

障がいの有無、国籍、年齢、性別などにかかわらず、個性を尊重し、持てる能力を最大限に発揮できる組織風土づくりを推進しており、お互いを認め受け入れる文化を整え、生き生きとした仕事に取り組む活力ある職場を構築しています。障がいを持つ従業員も能力を十分に発揮できるように安全で働きやすい環境整備を行うとともに

に、就業職場・職域の拡大に努めています。

※ 当社の障がい者雇用率(2013年3月時点)は1.82%となっています。

女性の職域拡大

女性社員の能力・特性等を発揮できる技術職や営業分野へのシフトなど、育成をふまえた積極的な登用を行っています。外部交流団体への派遣などのキャリア開発やチャレンジ機会の創出を行い、さまざまな場面において活躍の場を広げています。

入社して7年になりました。現在は、モバイル関連のプロジェクトリーダーをしています。業界柄、女性が少ないこともあり、関係者から信頼を得るまでは人並み以上の努力を必要としますが、一つひとつの仕事に真摯に向き合うことを通じて、信頼を得る過程に喜びとやりがいを感じています。女性の後輩には、自信を持ってさまざまな仕事に積極的にチャレンジする大切さを伝えていきます。

(株)ミライト・テクノロジーズ
モバイル事業本部
中川 清佳



研修制度

ミライトグループの研修制度は、階層別研修と技術系専

門研修で構成しています。階層別研修では、新入社員研修から役員研修まで、それぞれの職位やポジションに必要なスキルと幅広い知識を習得します。

技術系専門研修では、情報通信エンジニアリング協会や各種教育会社によるテクニカルなスキルアップ研修や、資格取得研修などのほか、自己啓発のための講演・セミナー等バラエティーにとんだ研修体系を設定しています。また、社員を側面的に支援するメンター制度では、会社や配属部署における上司とは別に指導・相談役となる先輩社員が新入社員のサポートを行っています。



新入社員研修の様子

海外での現地作業員教育

世界のさまざまな地域で情報通信関連の調査・企画・設計・施工保守の事業を展開していることから、海外の人材育成にも努めています。昨年はオーストラリアの現地子会社に技術者を派遣し、光ファイバー接続技術の教育訓練を実施しました。このような取り組みを継続的に実施することにより、世界の情報インフラ構築に貢献していきます。



オーストラリアの現地子会社での技術者育成

働きやすい職場づくり

ワークライフバランス

豊かさを実感しながら暮らしていくため、多様な働き方を選択できることで仕事と家庭生活の両立を実現してもらうなど、従業員の仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を推進しています。働きながら出産や子育てができるよう育児・介護休業制度や短時間勤務制度などを拡充することにより、多くの社員が活用しています。

メンタルヘルスの推進としては、予防、早期発見のため産業医による相談や、EAP(従業員支援プログラム)機関と連携して職場問題だけでなく家庭問題なども専門カウンセラーに相談できる制度を設けています。

MIRAIT フォーラム

グループ各社の中核社員がメンバーとなり、ミライトグループの風通しのよい新たな企業文化を醸成するためのさまざまな施策を企画し実行しています。施策の主なテーマは、「ブランド戦略」「社員間コミュニケーション」「社会貢献・環境保護活動」などですが、新たな行動指針(「ミライトWAY」)の具体化などの成果を出しています。

人権研修

人権を尊重しあう、差別意識や嫌がらせのない企業風土づくりに向けて、新入社員に対して「人権研修」を開催するなどグループをあげて人権啓発に取り組んでいます。

環境への負荷を減らし 地球をよりよくなる事業に取り組む

エネルギー使用量削減および再資源化の向上などさまざまな事業活動を通じて資源の有効活用への取り組みを推進しており、自然環境の保全に努め、健全な地球環境を次世代に引き継いでいきたいと考えています。

環境マネジメントシステム

グループ各社で環境マネジメントシステム (ISO14001) の認証を取得し、地球環境に配慮した事業活動や環境負荷を低減する活動に取り組んでいます。

環境方針

日々の事業活動を通じて、地球環境の保全活動を推進し、社会の良き企業市民として豊かな社会の創造に貢献する。

- 省エネ法、廃棄物処理法等の環境保全に関する法規制及びその他の要求事項を順守し、地球環境負荷の低減と汚染の予防を図る。
- 適切なリスクアセスメントの実施を通じて環境リスクを低減するとともに、効果的な環境活動を実現する。
- ミライトグループで働く全ての人々は、環境保全に対する認識を高め、健全な地球環境を次世代に引き継ぐために積極的に行動する。

省エネルギー化の推進

天然資源の消費による地球温暖化の防止とともに、資源の有効活用への取り組みを推進しています。温暖化の主要因である温室効果ガスの排出量を削減するため、エネルギー使用量削減および再資源化の向上、グリーン商品の購入などを行っています。

電気使用量の削減

オフィスにおけるエネルギー消費は、電気の使用によるものが多いことから、ピーク電力への対応などの節電対策にグループ一体となって取り組んでいます。

【オフィスにおける節電施策】

- プリンター、コピー機の台数削減
- 全社員のパソコンを省電力設定
- 最適な室温設定の徹底
- 必要最低限の照明点灯、不要な照明消灯の推進
- エレベータの使用制限（「3up・4down」：エレベータの利用は昇りは3階以上、降りは4階以上）

デマンド監視装置

主要なビル（株）ミライト・テクノロジーズにおける11ビル：本社ビル、別館ビル、大阪技術センター、神戸技術センター、神戸西工事事務所、江坂ビル、京都技術センター、奈良技術センター、五反田ビル、埼玉支店、横浜技術センター）にデマンド監視装置を設置し、節電の取り組み、環境意識向上を行っています。



電気自動車・ハイブリッド車の導入

温室効果ガスの排出量を削減するため、バッテリー駆動式のバケット車（高所作業車）などの電気自動車や、ハイブリッド車の導入を進めています。



資源の有効活用と循環社会

廃棄物の削減と再資源化

ミライトグループの廃棄物のほとんどは、土木工事から排出されています。その中で多くを占めているアスファルトやコンクリートの塊については、再資源化により100%リサイクルしています。今後は、廃プラスチックなどについても再資源化率の向上に努めていきます。

また、そのほかの廃棄物削減の取り組みとして、工事用材料を梱包する段ボールの削減、梱包資材の見直し、ケーブルドラムの再利用の推進などに取引業者と共同で取り組んでいます。オフィスでも、資源の節約のために、会議等に使用する資料の削減を図っており、資料の簡素化とプロジェクター使用によるペーパーレス化や画面印刷および資料を集約して印刷するなどの施策を推進しています。

環境に配慮したビル

ミライト枝川ビル（東京都江東区）は、竣工から23年以上が経過し修繕が必要となったことから、2012年度に省エネルギー化や省電力化も実現する大規模な改修を行いました。

環境に配慮したグリーンビルディングを目指し、屋上に小型風力発電機と太陽光発電システムを設置し年間約



枝川ビル屋上に設置した風力発電システム



大阪技術センター

8,000kWhを発電しています。電力はビル内で使用するとともに、新エネルギー技術のノウハウの蓄積・向上にも役立てています。2012年度の改修の際には、リチウムイオン蓄電池や最新のLED照明を設置するなどの省エネルギー技術を導入しています。



京都技術センター

グリーン調達

購買製品への環境配慮事項として、各部門においてグリーン購買活動を推進しています。また、工事用材料を簡易梱包へ変更するとともに、再利用の取り組みなどを進めています。

新エネルギーと環境関連事業

太陽光発電システム

再生可能エネルギーとして有力視されている太陽光発電の設備工事を、千葉県佐倉市で施工しました。これは、2012年度末での累計発電量が6MWの規模となる設備です。

エネルギーマネジメント技術を高めるため、ミライト独自で推定年間発電量1,200MWhの発電設備の建設を、2014年3月完成を目標に進めています。



千葉県佐倉市太陽光発電工事

節電散水システム

エアコンの室外機に散水することで、消費電力を20～30%削減できるシステム「エコネット」を販売しています。

「エコネット」は、外気温が設定温度以上になると、自動的に室外機の熱交換機部分に純水を噴霧し、水の気化熱で室外機の熱を奪う「打ち水効果」により、電力を削減するというものです。



EV充電システム

環境に優しい低炭素社会の実現に向けて、ミライトグループでは高速道路などにおける電気自動車の充電スタンドの設置工事を行っています。



高速道路のEV充電スタンド

安心・安全で豊かな未来を 社会とともに築く

グループ一体となって安全と品質を大切にしながら、最高のサービスを提供することで、豊かで快適な社会の実現に寄与するとともに、企業の社会的責任を果たし、常に人間性を尊重する企業として、人や社会と共存共栄する企業であり続けたいと考えています。

社会貢献活動

東日本大震災ボランティア活動

ミライトグループがメンバーとなっている宮城電業協会では、加盟会社とともにさまざまなボランティア活動を行っています。東日本大震災で被災した農地のがれき撤去のほか、仮設住宅への花壇や緑のカーテン（朝顔）の設置などを行いました。



自動販売機募金

ミライトグループ各社の拠点等に「10円寄付ボタン」など募金機能のあるドリンク類の自動販売機を30台設置し、従業員の社会貢献活動として、売上の一部を「緑の募金」（公益社団法人国土緑化推進機構）などへ寄付しています。寄付金は、「緑の募金」を通して森林ボランティア団体の支援などに役立てられます。



募金機能のある自動販売機

AEDの設置

お客さまや従業員だけでなく、地域住民の方々にも活用していただくため、ミライトグループ各社では拠点の玄関等にAED（自動体外式除細動器）を設置しています。あわせて、従業員に対して、AEDの操作方法などを学ぶ救命講習会を毎年実施しています。



救命講習会

森林保全

募金活動

森林や里山の保全活動、地域の緑化に貢献するため、公益社団法人国土緑化推進機構、公益財団法人大阪みどりのトラスト協会などへの寄付を目的とした「緑の募金」を、年2回実施しています。また、公益社団法人緑の地球防衛基金に使用済みのテレホンカードや切手を送付し、中国やタンザニアでの植林活動に貢献しています。

緑化推進活動

緑化推進活動として、各部・協力会社に参加を募り、公益財団法人大阪みどりのトラスト協会の里山保全活動にボランティア参加しています。2012年には、これまでの長年の活動に対して公益財団法人大阪みどりのトラスト協会より感謝状を授与されました。



2012年11月「藪原の森保全活動」

子どもワクチン募金

ミライトグループの千葉支店では、半期ごとの営業成果を評価して授与する支店長賞の賞金の一部と支店長からの志を、NPO法人「世界の子どもにワクチンを」日本委員会（JCV）に寄付しています。4回目の寄付となる2012年度は、ポリオワクチン500人分の金額を寄付しました。



NPO法人「世界の子どもにワクチンを」日本委員会

地域とのコミュニケーション活動

地域清掃

地域社会との協調を図るとともに、地球環境の保全を目的に、各拠点の周囲で行われる清掃活動に参加しています。

【参加した主な清掃活動】

- ・第8回新木場「清掃まつり」に参加（2012年3月）
- ・NTT千葉グループ「水辺クリーン」に参加（2012年6月）
- ・米子市「ボランティア・ロード車尾」に参加（2012年12月）



わがまち江東・月いちアダプト



(株)ミライト・テクノロジーズ本社前の清掃

- ・六甲アイランド地域会清掃活動に参加（2012年10月）
- ・和歌山県「紀ノ川清掃」に参加（2012年7月）
- ・大阪本社、技術センタ周辺の清掃活動（通年）

豊洲フェスタ

ミライトグループが2010年に東京都江東区豊洲地区に本社を移転したことから、地域住民の皆さまとのコミュニケーションを図るため、江東区主催で毎年開催されている「豊洲フェスタ」に大勢の従業員が参加しています。



豊洲フェスタ参加メンバー

株主とのコミュニケーション、IR活動

株主の状況

2010年10月の経営統合により東京証券取引所1部に上場しています。2013年3月末現在、約18,000名（単元未満株主を含む）の方が、ミライト・ホールディングスの株式を保有しています。

■ 株式保有比率



株主総会

(株)ミライト・ホールディングスとして3回目となる定時株主総会を、2013年6月26日に東京都江東区にある本社ビルで開催しました。今回の株主総会では出席した約200名の株主に対して、議案およびグループの経営などについてわかりやすく説明を行うなど、コミュニケーションの充実を図りました。

なお、株主総会招集ご通知は、内容の拡充を図るとともに十分な検討期間がとれるよう早期発送に努め、発送と同時にWebサイトでも公開しています。

IR活動

機関投資家を対象に、ミライトグループの財務状況や事業戦略などを理解していただけるよう、経営トップによる決算説明会を年2回開催しています。

Webサイトでは、決算説明会で使用した資料、決算短信などの財務情報、プレスリリース、CSR活動に関する情報などさまざまな情報を適時開示しています。

ほかに、グループの事業内容や決算概況などを株主の皆様にお知らせするため、株主総会と第2四半期決算発表後に冊子「ミライト・レポート」をお届けしています。



決算説明会

高い企業倫理に基づく 健全で透明な経営を実現する

持続的に健全な発展を続けるため、最適なコーポレートガバナンスや、コンプライアンスに配慮するとともに、万一のリスクに備える管理体制を構築しています。

コーポレートガバナンス

当社は、お客さまや社会からの信頼に応え、ミライトグループ各社が持続的に健全に発展していくため、最適なコーポレートガバナンスを構築するための各種のマネジメント体制を強化し続けています。

取締役会、監査役会

当社は、社外取締役 2 名を含む計 10 名の取締役で取締役会を構成し、原則毎月 1 回開催する取締役会において、経営に関する重要事項の決定および報告を行っています。また、監査役制度を採用しており、社外監査役 3 名を含む 4 名で監査役会を構成しています。

経営会議と各種委員会

当社は、会社の重要な意思決定にあたっては、原則として、社長、副社長、取締役などで構成する経営会議（月 2 回程度開催）で審議をしたうえで決定しています。また、経営会議のもと、ミライトグループの経営課題を議論する各種委員会を設置しています。

コンプライアンス

ミライトグループは、社会インフラとしての情報通信ネットワークの構築などを行っていることから、社会的責任と公共的使命を常に認識し、法令等を遵守し、社会的規範にもとることのない誠実かつ公正な企業活動を行っています。

内部統制システム

当社は、グループ各社の業務の適正さを確保する体制として「内部統制システムの基本方針」を取締役会で決議して取り組んでいます。また、ミライトグループ「マネジメントルール」により、グループ運営の具体的な運用方法を定め、持株会社との「協議事項」と持株会社への「報告事項」などを整理し明確にしています。

監査役監査

当社は、各監査役が取締役の業務の執行状況に関して適宜監査を行っています。また、会計監査人などと定期的に監査計画・監査結果を情報交換し連携するなど、監査体制の強化に努めています。

内部監査

当社は、業務監査室を中心に、統一的な監査や内部監査の取り組み状況の確認などを行うことで、グループ全体の内部統制の整備・運用状況を検証するとともに、業務改善の推進に努めています。

コンプライアンス推進体制

ミライトグループは、コンプライアンスの徹底を図るため、「コンプライアンス規程」を 2011 年 3 月に策定しました。社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」で個別課題について審議するとともに、推進活動の進捗状況を管理しています。また、「コンプライアンス

マニュアル」をグループ内に配布し、企業倫理の浸透・徹底を図っています。

ヘルプラインの設置

2006 年 4 月に施行された公益通報者保護法などを

ふまえて、不正や不祥事の未然防止を図るため、各社ごとに社内の申告・相談窓口を設けています。また、(株)ミライト・ホールディングスに全グループ企業を対象とした社内と社外向けの相談窓口を設けています。

リスクマネジメント

想定される多様なリスクに備え、万一リスクが顕在化した場合でも損失を最小限に抑えることができるよう、予防や準備などのリスク管理に取り組んでいます。

リスク管理の基本的な考え方

ミライトグループに経済的損失、信用・ブランドイメージの失墜をもたらす、経営理念、経営目標、経営戦略の達成を阻害するさまざまなリスクに対して適切な処理を行うことにより、事業の継続と安定的な発展を確保できるようにしています。

ミライトグループに大きな損失を及ぼす、
またはおそれのある事項

- | | |
|----------------|------------|
| 1 業務活動の有効性、効率性 | 3 コンプライアンス |
| 2 財務報告 | 4 資産保全 |

リスク管理体制

「リスク管理規程」で、持株会社としてのリスク管理の基本事項を定め、さまざまなリスクに対して的確な管理を行うとともに、社長を委員長とする「リスク管理委員会」で個別課題の審議などを行っています。

情報セキュリティ・マネジメントシステム

情報セキュリティ・マネジメントシステム ISMS (ISO/IEC27001) を各社が認証取得しています。グループの全従業員は、情報セキュリティリスクに適切な対策を講じ、常に継続的な改善を行うことにより、お客さまに関連する情報や事業上の重要な情報資産について保護を図るようになっています。事業活動に用いるお客さま情報、及び社内情報の重要性を認識しセキュリティリスクに適切な対応を講じて情報資産を保護します。

情報セキュリティ方針

・事業活動に用いるお客さま情報、及び社内情報の重要性を認識しセキュリティリスクに適切な対応を講じて情報資産を保護する。

・情報セキュリティに関するリスクアセスメントを定期的実施し、情報技術の進歩に伴う新たなリスクに対し効果的な低減を図る。

・ミライトグループで働く全ての人々は、取り扱う情報の重要性を認識し、研修等を通じて啓発を図る。

情報セキュリティ管理体制

当社は、「情報セキュリティ管理規程」を 2010 年 10 月に施行し、各部長を管理責任者とする情報セキュリティ実施体制を構築するとともに、「情報セキュリティ管理マニュアル」を社内配布するなど、情報セキュリティ管理の徹底を図っています。

より豊かで快適な社会の実現に向けて

2010年10月に大明(株)、(株) コミュニチュア、(株) 東電通を経営統合するにあたり、グループの経営の基本理念を「企業の社会的責任を果たし、常に人間性を尊重する企業として、人や社会と共存共栄する企業であり続ける」とし、一体となってCSRに取り組むことを表明しました。

さらに、2012年10月に実施したグループの事業再編成を機会に、「経営の基本理念」「行動指針」「企業倫理憲章」を新たに「ミライト WAY」として体系化し、CSRを意識した新しい企業文化をグループ社員が心をひとつにしてつくっていくための行動規範をつくりました。

ミライトグループは、「総合エンジニアリング & サービス会社」を目指し、「安心・安全」「品質保証」「コンプライアンス」を基本に、情報通信関連インフラや各種システムの構築のほか環境や新エネルギーへの取り組みなどさまざまな事業活動を通じてCSRの推進を図っていきます。

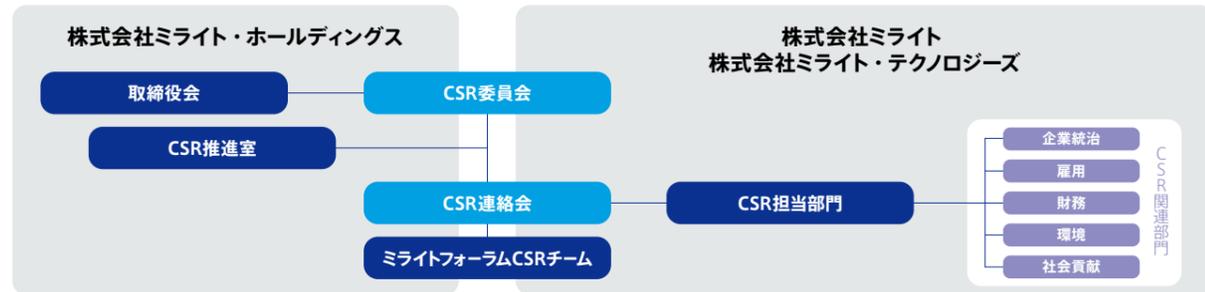
CSRの基本的な考え方

- 1 社会の要請や期待に応じて事業を継続させることで、ステークホルダーから長期的な信頼が得られるようにする。
- 2 本業に社会や環境などの諸課題への対応を組み込むことで、変化へ適応できる企業にする。
- 3 企業として持続可能な社会づくりに貢献することで、存在することを期待されるような「ブランド」にする。

CSR推進体制

持株会社社長を委員長とする「CSR委員会」を設置するとともに、各社のCSR担当者による「CSR連絡会」およびMIRAITフォーラムのCSRチームなどとも連携して、持株会社の「CSR推進室」を中心にグループ全体でCSRを推進する体制を構築しています。

CSR推進体制図



社名の由来

私たちの希望をのせた未来に向けて、煌々と輝ける光の束を放ち、行く先を照らしながら、お客さまとともに成長し続ける総合エンジニアリング&サービス会社。それが私たち「MIRAIT(ミライト)」です。「未来」、ITの2つの言葉を包含し、私たちのこの新しい決意を簡潔に表現しています。

MIRAIT > 未来
MIRAIT > Information Technology
> Integration Technology

コーポレートマーク

「3つの思い」を3本の太いラインで象徴化。それらをつなぎ、高品質な事業がグローバルに広がる様子をゴールドのアークラインで表現し、全体を「M」のイメージとしました。未来を切り拓いて行こうとする私たちの針路の象徴でもあります。

3つの思い

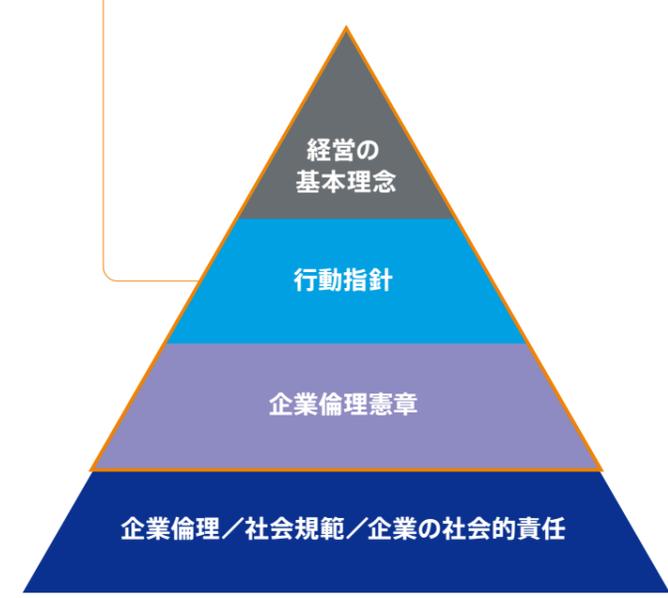
- ① 事業ドメインの「幅」を拡げ
 > 上流から下流工程の拡大（企画・設計、建設、保守・運用等）
- ② 事業ドメインの「高さ」を極める
 > NI+上位レイヤ+下位レイヤまでのトータル提案
- ③ 新しい事業ドメインへの展開を図る
 > 電気、環境、エネルギー分野等、将来の統合的な社会インフラの創造に寄与

ミライト WAY

ミライトグループの「経営の基本理念」「行動指針」「企業倫理憲章」を「ミライト WAY」として体系化しました。

ミライト WAY

ミライトグループの社員一人ひとりが自覚し実践するためのよりどころ。全社員の気持ちをひとつにする考え方。



経営の基本理念

- 1 >> 情報通信を核とし、常に新しい価値を創造する、「総合エンジニアリング & サービス会社」として、お客様から最高の満足と信頼を得られる日本のリーディングカンパニーを目指します。
- 2 >> 安全と品質を大切に、最高のサービスを提供することによって豊かで快適な社会の実現に寄与します。
- 3 >> 企業の社会的責任を果たし、常に人間を尊重する企業として、人や社会と共存共栄する企業であり続けます。

行動指針

- 1 >> 「期待を超える」サービスを常に提供します!
- 2 >> 「安心と信頼」を現場力でさらに高めます!
- 3 >> 一歩前へ! 「知恵と勇気」をかたちにします!
- 4 >> 「誠実と公正」を仕事の基本とします!
- 5 >> 豊かな未来を「強いチーム力」でつくります!

企業倫理憲章

健全な企業活動を推進していくためには、法令等を遵守し高い倫理観をもって事業を行うことが不可欠という認識から、2011年3月に「ミライトグループ企業倫理憲章」を策定しました。憲章は、ミライトグループに所属する全ての役員および社員を対象に、企業倫理に関する基本方針と具体的行動指針を示しています。

「ミライトグループ企業倫理憲章」

- 1 >> 「法令等遵守」に関する基本姿勢
- 2 >> 「お客さま」に対する基本姿勢
- 3 >> 「株主・債権者」に対する基本姿勢
- 4 >> 「取引先等」に対する基本姿勢
- 5 >> 「従事者・職場」に関する基本姿勢
- 6 >> 「社会・環境」に対する基本姿勢
- 7 >> 「個人情報・顧客情報及び知的財産の保護」に関する基本姿勢

コーポレート・スローガン

企業理念・事業内容・ビジョンを端的に、象徴的に伝えるためのスローガンです。

ミライトの語源である「未来」と「IT」という2つの言葉をストレートに使い、ミライトグループの培ってきた情報通信技術により、より豊かな社会を実現したいという願いを表現しました。

「豊かな未来」=「みんなの笑顔」と捉え、お客さまや

地域社会そして社員などすべての人が笑顔で溢れるような社会を、私たちミライトグループといっしょにつくっていきたいという想いを込めました。

